登立茶屋跡

ここは大雲取越で那智に最も近い茶屋だった登立茶屋があった場所です。登立茶屋は茶屋であると同時に市場でもあり、那智の漁村に暮らす人々と内陸部にある田辺の商人たちがそれぞれの商品を交換するためここに集まりました。登立茶屋は地元の住民の日常生活に溶け込んでいたため、人々はこの場所を単に「馬つなぎ」と呼んでいました。

大雲取越と熊野古道の茶屋

大雲取越は、熊野那智大社と熊野本宮大社を結ぶ「雲取越」という峠道の一部で、この道沿いにはかつて多くの茶屋がありました。大雲取越は「雲取越」という熊野那智大社と熊野本宮大社を結ぶ峠道の一部です。雲取（cloud-catching）の名称はこの道の高い標高に由来します。

熊野古道沿いのあちこちに見られた茶屋（ちゃや/ぢゃや）は、参詣者に休憩場所や軽食、そして時には宿泊場所を提供していました。王子社（熊野三山の御子神を祀る諸神社）とは異なり、茶屋は宗教とは無関係でした。茶屋は江戸時代（1603–1867）に隆盛しましたが、19 世紀後半に参詣者の数が減少するにつれ、ほとんどの茶屋は店を閉じました。